令和８年７月２２日
教育課程部会
総則・評価特別部会
参考資料　1

2026年7月22日（水）

第11回総則・評価特別部会

「総則・評価特別部会　取りまとめ（案）」に寄せて

石井英真　（京都大学）

- 教育課程行政の本丸である、価値ある知識とは何かという問いに向き合って、**今必要な情報教育の領域や教科の立ち上げ**も行いつつ、**内容の重点化・構造化・精選**の議論に踏み込んだ点。見方・考え方、カリキュラム・マネジメント、個別最適な学び等のキーワードの意味を明確化したり見直したり、適切な用語法に改めたりと、**改革の枠組みを筋肉質なものに**した点。目標・内容と評価とを一体的に議論し、**学びに向かう力、人間性等について、カリキュラム全体で真にそれを育成しうる見通し**の下で、観点別評価において**主体性の評価は直接的には評定とつなげない**という方向性が確認された点。**調整授業時数等で、小文字のカリキュラム開発、カリキュラムいじりにかかわる学校の創意工夫を促す制度的な具体的なしかけ**が示され、**条件整備への踏み込み**も考えられている点。これら、長年にわたって積み上がってきた諸課題に真正面から取り組み、論争含みな中で、一定の方向性が示されたように思う。

- **一条校のみならず多様な学びの場も含めた柔軟な公教育システムへの構造改革の基盤整備**。学力差や子どもの多様化もそうだが、都市部と山間部・離島等とでは、学級規模のイメージなどもかなり異なり、一律で考えられない。**自己調整学習の指針**についても、裁量的な時間の学習枠のような、個に応じた学習時間はもちろん、さまざまな理由で遠隔で学びを保障せざるをえない場面も増えていく状況もふまえた上での指針と見ることができる。自己調整のサイクルを示した資料の図の下段の内容が示すように、**教師の指導の下で、ある程度の人数でみんなで学び合える状況においては特に、単元づくりや授業づくりの基本がおそろかになってはいけない**。

- **学校や学びの場自体の多様化をふまえると、調整授業時数制度や単位制度の柔軟化は必須。制度があるからと言って、やらねばならないものではなく、使いたければ使うもの**なので、それで学力低下ということにはならないだろう。むしろ、**攻めたもの勝ちという風土を作っていくことが大事**。授業の手法の工夫に偏りがちな教育書等のタイトルについても、**5分短縮に止まらない、カリキュラムいじりの多様な工夫**がタイトルになったようなものが増えることを期待したいし、その中で従来の枠を超えた様々な学びの変革の提案が生まれることが大切。

- **算数・数学、国語といった特定の教科の時数が大きく減らされるという誤った理解**や、学力低下を心配する声もある。情報教育の充実で標準授業時数を減らすのは、**各教科から薄くまんべんなく**であるし、調整授業時数はやりたければやるということなので、それで学力低下というのは考えにくい。**時数を減らすのに関わって、内容の精選にも踏み込む必要があるし、現在、各教科等でそのための様々な提起もなされている**。それは、**精選のための精選ではなく、目標・内容の重点化・構造化に伴うそれであって、ダイエットのためのダイエットではなく、肉体改造に近い**。むしろ先生方の負担や余裕のなさやオーナーシップの低下によって学力低下傾向が生まれかねないことが心配であり、それを招かないためにも、一定の精選を伴う目標・内容の重点化・構造化は不可欠であろう。

- 封建制度、市民革命等、**大きな中核的な概念を理解していく上では、当然さまざまな事実的知識等で肉付けしていかねばならない**。しかし**その事実的知識には、概念形成に上っていく上での踏み台で、うろ覚えくらいでいいものもあれば、ちゃんと覚えておいた方がよいものとがある**。**歴史の用語に関する提案は、覚えておいた方がよいライン、つまり入試でも用語を問える範囲**の指針を示すものと考えられ、**教科書等での説明の際に、それ以上の情報や事実的知識を加えてはいけないということではないし、そのように解すべき**だろう。

- 理解の高みや深みを目指すためには、いろいろと知っていたりと知識のすそ野の広がりは確かに重要。しかしそれは、**個別の事実的知識を習得し切ってから思考するといった段階論ではない**。**すそ野が大事だと言って、そこで細かい石を積むばかりで高いところに上っていかないのではなく、まずざっくりとでも大きく石を積み上げて、高みを見ながら、必要な範囲で足場を固めていく**。

- 現状は、**入試等の影響で、あまりに細かなトリビア的な事実的知識にこだわりすぎて、社会を捉える眼鏡となる概念的知識の理解が十分に形成されていないのではないか**。AIによる偽情報の拡散など、民主主義を脅かす状況において、**批判的に情報を吟味するネガティブリテラシーが不可欠**である。**確かな知識の重要性は増しているが、それはトリビアではなく社会を読み解く眼鏡となる概念**。**いつか忘れてしまう100のトリビアよりも、１つの大きな問いを軸にした核となる概念の理解と50の残る知識**。その程度のラインを残していこうと思うと、逆にすそ野の一定の広さを伴っていたりするものである。**本当の意味で知識を重視するとはどういうことか**を今こそ考える必要がある。